

初等教育研究会 札幌市〈算数〉支部

“明日の算数を語る” 第2弾

授業づくり緊急特別講座

8月20日(土)

【講師】

前國學院栃木短期大学教授
元筑波大学附属小学校教諭

正木 孝昌 先生



初等教育研究会札幌〈算数〉支部では、このたび正木孝昌先生をお迎えして、ご講演をいただく機会を得ました。

正木先生は、これまでも札幌市内の学校での公開授業や10年経験者研修における講演などを通して、子どもが生きる授業をどのように創り上げていくかについて、その思いを熱く語られ、算数の教科の枠を超えて北海道・札幌の多くの先生方に大きな感銘を与えてくださっております。

今回、正木先生のご厚意で、これまでの教師経験から得た授業に対するお考えを聞くことができる機会を得ることができました。「授業の構成についてもっと考える必要がある」「子どもの中に『～したい』という思いが生まれる授業をつくらなければならない」という、正木先生の貴重なお話を是非この機会にお聞きください。

■と き 平成23年8月20日(土)

■と ころ 札幌市立日新小学校

■日 程

8:30～ 受付

9:00～ 講座Ⅰ(前半)

12:00～ 昼食

(各自お取りください)

13:00～ 授業づくり講座

14:00～ 講座Ⅱ(後半)

17:00 閉会

■会 費 1000円(資料準備代)

■主 催 初等教育研究会札幌市〈算数〉支部

■後 援

北海道算数数学教育会小学校部会

北海道算数数学教育会小学校部会札幌支部

札幌市立日新小学校

札幌市中央区北8条西25丁目2-1

(地下鉄東西線「二十四軒」駅 6番出口より徒歩5分)

【電話】(011)631-6361 【FAX】(011)615-6792

■申し込み方法

裏面の申込書にご記入の上、FAX かE-mail にて、**8月18日(木)まで**にお申し込みください。

■ 申込先

札幌市立日新小学校 瀧ヶ平 悠史 宛

FAX : 011-615-6792

E-mail : nodoka.rana.korosuke@ac.auone-net.jp

授業の構成と「鯛」
今、北海道・札幌の問題解決学習が歩むべき道は

F A X 送信表

送信先： 札幌市立日新小学校
瀧ヶ平 悠 史 行
番号： 011-615-6792

初等教育研究会札幌市〈算数〉支部 “明日の算数を語る”第2弾 授業づくり緊急特別講座 参加申し込み書

お名前_____

所 属_____

電 話_____

☆当日、正木先生との懇親会を予定しております。
いずれかに○をつけてお出してください。

当日、正木先生との懇親会に
() 出席します。
() 欠席します。

※ 学習会終了後徒歩圏内の場所を考えています。会費については、当日ご連絡します。

※ 最低6時間、8時間あっても足りなかったというお話を聞きました。きっと、懇親会でも、続編があるものと思います。

※講師の正木孝昌先生ご自身が資料を持参します。限定50部の予定です。当日受付の場合、資料がない場合がありますのでご了承ください。

※8月9日(火)の庁内メールで一斉に届くように配慮いたしましたが、夏季休業中のためこの案内をごらんいただけるとは限りません。ぜひ、開封した皆様で、この企画に関心のある方は、仲間の方にお声をかけてください。「知っていたら、行きたかったのに！」という方がいないようにご配慮をお願いします。

申し込み締め切り 8月18日(木)まで

平成23年8月9日

道内の算数関係者の皆様

初等教育研究会札幌市（算数）支部

支部長 田 中 秀 典

（札幌市立日新小学校長）

“明日の算数を語る” 第2弾 授業づくり緊急特別講座のご案内

時下の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、日ごろより当支部の活動につきまして、深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、“授業をみて語り合う”を合言葉に、「初等教育研究会札幌市（算数）支部 第11回研究大会」を平成22年2月13日（日）、札幌市立円山小学校にて開催し、前日には初めての試みとして、日新小学校を会場に『明日の算数を語る会 授業づくり講座』を開催しました。

『脱・停滞する交流』～授業を見直す 見方を鍛える～と題して、参加される個々の先生方の問題意識に支えられた実りある会となりました。アンケート結果からも話題を焦点化した内容でシリーズ化してほしいと希望が多数ありました。

さて、今回は、7月28日に羊丘小学校を会場に行われていた『北の教育文化フェスティバル in 札幌』に来られていた正木先生が、清里の正木合宿で話す内容を、「数人の集まりでいいので、札幌の先生に伝えたい。」とのお話がありました。「土曜日とかを使って、午前3時間。午後3時間。問題解決型の授業からの脱却について話したい。場を設定していただけないか。」とのことでした。資料も80ページを超えるものだそうです。著書にしたら、160ページにも及ぶとの話。今のところ、「本にする予定はない。」とおっしゃっていましたが…。

これまで、初等教育研究会では、授業者として講師として大変お世話になっておりますので、大げさにしないでほしいとの申し入れはありましたが、「学校をお借りし、沢山の若者に集まってもらえれば、こんなうれしいことはありません。望外のことです。」とのご返事をいただきましたので、別紙にありますようなく「授業づくり講座」第2弾を企画しました。

昨年の講座とは違い、正木先生の授業づくりに対する思い入れを存分にお聞きする会になると考えます。正木先生の話は、切り込み口が鋭く具体的で熱く語られるのが特徴です。本音を超えた本音をおおいに語り、授業づくりに対する新たな提案も含まれているようで、楽しみです。

講演の内容に触れるメールをいただきましたので、掲載します。

内容について少し書きます。いわゆる 問題提示に始まり、自力解決を経て、練り上げという問題解決の授業が、形骸化と言われながらも、いまだに現場では金科玉条の如く信奉されています。

その現状を、ある人は、「形骸化ですらない。」と表現しました。形骸化とは、きちんと機能していたものが、だんだんその形だけが残って骸になっていく姿です。しかし、今、上記の授業過程を信奉している人は、初めから、授業は、それしか知らない状態だったというのです。

以前は、現場では先輩が後輩に授業を伝授しました。いろいろと教え、授業について具体的に实际的に本質的に職場で真剣な議論が繰り返されていました。しかし、いつの頃からか、現場のその雰囲気は極めて希薄になってきました。その中で、問題解決の表面だけをなぞって行う授業を授業だと思込んでしまっている授業者が多くなってきたというのです。

このような現状を考えると、私たちは、授業とは何か、その根基に返って、話し合うことが大切だと思うのです。

授業づくり講座ですので、昨年の企画のよさを取り入れ、参加者の皆様から、問題解決学習について日ごろ考えている問題意識を具体的にお聞きする時間も設定しました。会の流れによって、変更もありません。

夏季休業中に持ち上がった話で、各学校や道内の地区委員にはご案内はせず、紙物では、「北数教札幌支部会員」「昨年度授業づくり講座参加者」「初等教育研究会札幌市（算数）支部の会員」「札幌市立日新小学校長」へののご案内となっています。

札幌市内は、8月9日（火）の庁内メールで一斉に届くように配慮いたしましたが、夏季休業中のためこの案内をごらんいただけないとは限りません。ぜひ、開封した皆様で、この企画に関心のある方は、仲間の方にお声をかけてください。「知っていたら、行きたかったのに！」という方がいないようにご配慮をお願いします。

札幌市外の皆様には、ご後援をいただきました北数教のHPを通じてのご案内となっております。